

内水浸水想定区域図に関するQ&A

Q1.内水浸水とは何ですか。

短時間の大雨により、排水路等の排水が追い付かずあふれてしまう場合に発生する浸水のことです。

Q2.内水浸水想定区域図とは何ですか。

短時間の大雨により内水浸水が発生した場合において、想定される浸水の範囲とその深さを表示した図のことです。

Q3.内水浸水想定区域図を作成する目的は何ですか。

浸水に対する事前のリスク情報として、想定される浸水範囲や浸水深を周知することで市民の皆様の備えを円滑にし、浸水被害の軽減を目的としています。

Q4.作成した区域図は市内全域ではないのですか。

水防法では、公共下水道（雨水）を整備した区域を対象にすることとされておりますことから、下水道事業計画区域としています。

Q5.想定最大規模降雨とは何ですか？

日本国内を降雨特性が似ている15の地域に分け、それぞれの地域において、過去に観測された最大の降雨量に基づき、設定した雨のことです。本市は「関東」地域に該当し、1時間あたり153mmの降雨となります。なお、「関東」地域においては、平成11年に千葉県香取市で実際に1時間に153mmの降雨があったことから、この値が採用されています。

Q6.川からの越水は考慮していますか。

内水(河川等へ排水できずに溜まった雨水)を対象とした浸水想定区域図となりますので、外水(河川からの越水等)は考慮されておりません。外水氾濫による浸水想定は「館林市ハザードブック」にまとめられておりますので、併せてご確認ください。

Q7.浸水の深さが大きいところの要因は何ですか。

地盤高の低い地域と浸水深が高くなる地域は概ね一致しております。これは、排水能力を超えて水が流れにくくなり、低い場所へと流れて溜まるためと考えられます。

Q8.自宅が浸水範囲に入っていて不安だが、どう考えたらよいのか。

実際の浸水の範囲や深さは、雨の降り方や排水施設の管理状況などによって変わるため、必ずしも毎回この深さまで浸水するというものではございませんが、不安を少しでも軽減するために、家の中で濡らしたくないものを「高い場所に保管する」、「車の移動場所を決めておく」など、備えの一助としていただくことが大切だと考えております。

Q9.今回着色されていないところは、今後も浸水の可能性がないということですか。

今回の図は、一定の降雨条件のもとでシミュレーションした想定図であるため、着色されていない場所でも浸水が発生する可能性があります。また、場所によっては、土地利用の変化等により、実際の浸水状況と異なる可能性もあります。

Q10.洪水浸水想定区域図との違いは何ですか。

館林市ハザードブックに掲載されている洪水浸水想定区域図は、主に河川の堤防の決壊や河川から溢れた水により発生する浸水（洪水＝外水氾濫）の想定となります。今回の内水浸水想定区域図は、河川の氾濫に至らないまでも、水路の排水能力を上回る大雨が降り、水路から水が溢れて発生するものや、排水先の河川の水位上昇により排水できずに発生する浸水（内水氾濫）を想定したものとなります。

Q11.ハザードマップとの違いは何ですか。

ハザードマップは、浸水想定に加えて、水害時の避難場所、避難経路などの防災情報を記載したものです。今回作成した図は、どこで、どのくらいの浸水が想定されるのかを示した基礎的な図面（技術的な地図）であるため、基本的な避難行動につきましては、「館林市ハザードブック」をご確認ください。